

令和元年産さくらんぼ作柄調査結果

1 予想作柄

○予想収穫量は13,500トンで、作柄^{※1}は「平年並み」。

- ・平年(14,050t)に比べ 96%
- ・前年(14,200t)に比べ 95%

○開花期の前半に低温・降雨があったため、産地や圃場によって着果にばらつきがみられているものの、各産地とも一定の着果量は確保されており、果実肥大も良好で、大玉の高品質なさくらんぼが期待される。

【前年収穫量】 14,200t 【平年収穫量】 14,050t(過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値)

※1 作柄は、平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。

「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

2 作柄調査の概要

- (1) 調査日：令和元年5月24日(金)
- (2) 調査園地数：48園地
- (3) 調査結果
 - ・花束状短果枝当たりの着果数^{※2}：1.7果(平年1.9果、前年:1.9果)
 - ・病虫害発生状況：作柄に影響する病虫害の発生はなし
 - *着果数が平年よりやや少ない分、果実の肥大が見込まれる

3 収穫盛期の予想

「佐藤錦」：6月22日～26日頃(前年より5日～6日程度遅く平年並み)

「紅秀峰」：6月30日～7月4日頃(前年より4日～6日程度遅く平年並み)

4 今後の対応等

- ・着果が多い園地での摘果作業の早期実施
- ・適切な着色管理(葉摘み等)の実施
- ・高品質果実出荷のための適期収穫の励行
- ・出荷基準を順守した厳選出荷の徹底

※2 「花束状短果枝(かそくじょうたんかし)当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実がなる極短い枝のこと。花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼びます。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているので平均着果数は2果となります。

以上